

競技者におけるスポーツ障害の認識に関する研究 ～部活動が続ける大学生に着目して～

佐藤 政紀 (生涯スポーツ学科 地域スポーツコース)
指導教員 河西 正博

キーワード：大学生，部活動，スポーツ障害

1. 緒言

近年，低年齢でのスポーツの専門分化が進み，何らかのスポーツ障害を抱えながらプレーする選手が増加してきている．澁谷（2004）によると，スポーツ障害とは，運動・トレーニングやスポーツの反復練習中などに起こりうる慢性的な異常のことをいう．

また，豊田（2007）は学生アスリートを対象に，怪我を克服していく体験をどのように語るのかという研究から，怪我を克服していく学生アスリートには，多かれ少なかれ「心の成長」を期待するのではないかといった問題意識から，学生アスリートにとって怪我は大きな転機であり，その経験を通じて精神的に成長していたことを明らかにしている．

以上を踏まえて，本研究では大学運動部に所属する学生を対象にインタビュー調査を行い，選手たちがスポーツ障害をどのようにとらえているのか，スポーツ障害が選手一人ひとりに与える影響と精神的な変化について検討を行う．

2. 研究方法

2014年9月，10月，12月に各1回，計3回のインタビュー調査を実施した．これまでのスポーツ経験や，スポーツ障害に対する意識，スポーツ障害によるプレーへの影響等について，半構造化インタビューをそれぞれ1時間程度行った．調査対象者は，Aさん（サッカー部），Bさん（硬式野球部），Cさん（陸上競技部）の3名である．

3. 結果と考察

三者とも，スポーツ障害を発症したことによって，その後のプレーに何らかの影響が生じ，卒業後の競技との関わりについても葛藤を抱えていた．しかしチームメイト，指導者，両親等の支えによって競技を続ける事ができている．これらのように，スポーツ障害とは，競技者にとって競技力低下や，その他様々な葛藤をもたらすものであるが，怪我と向き合い，さまざまな人々との関わりをもつなかで，人間的な成長をもたらすものでもあると言えるのではないだろうか．

4. おわりに

本研究は，スポーツ障害が大学運動部員にどのような影響を与えるのだろうか，という問題意識のもとに，大学運動部員のスポーツ障害に対する影響と認識を調査した．スポーツ障害を発症すると，その後の競技人生に大きな影響が生じるものと考えられるが，周囲の支えによって競技を継続することができ，人間的な成長につながるものであると考えられる．

引用・参考文献

- 杉野昭博（2010）スポーツ障害から生き方を学ぶ．生活書院
豊田則成（2007）学生アスリートは怪我をどう物語るのか？．びわこ成蹊スポーツ大学研究紀要，4：123-135